

マテリアリティの進捗状況・KPI達成状況（2023年3月現在）

	マテリアリティ	KGI（2030年の ありたい姿）	主なリスクと機会 （○機械 ●リスク）	主なKPI	ターゲット		2022年度実績	
					目標値	目標年	進捗結果とコメント	自己評価
環境 価値の 創造	① 気候変動問題への対応	脱炭素や気候変動に対して業界における主導的地位を確立している	○天然水産物の漁獲量減少を補う養殖水産物の販売機会の拡大 ●気候変動による原材料の調達不全リスクの増大	CO ₂ 排出量削減ロードマップ策定（国内G*1）	-	2022	2022年9月に策定・開示済み	★★★★★
				CO ₂ 排出量削減率（2017年度比：国内G）	30%以上	2030	CO ₂ 排出量を2017年度比8.8%削減	★★★★☆
				カーボンニュートラル達成（G全体*1）	-	2050	カーボンニュートラル達成に向け各種施策実施中	★★★☆☆
	② 循環型社会実現への貢献	効率的な資源利用によるサーキュラーエコノミー（循環型経済）がグループ内に浸透し、実践している	○容器包装プラスチック使用量削減、フードロス削減によるコスト削減 ●容器包装プラスチックの環境配慮型素材切替えによるコスト増加	プラスチック使用量削減率（バイオマス、リサイクル素材等への切替含む（MN*1））	30%以上	2030	容器包装のプラスチック使用量を2020年度比1.5%削減	★★☆☆☆
				フードロス（製品廃棄）削減率（国内G）	50%以上	2030	フードロスを2020年度比10.4%削減	★★★☆☆
				食品廃棄物等の再生利用率（国内G）	99%以上	～2024	食品廃棄物等の再生利用率98.4%	★★★☆☆
	③ 海洋プラスチック問題への対応	自社を含むサプライチェーン上で海洋へのプラスチック排出ゼロを実践している	○海洋プラスチック問題へ積極的に取り組む企業としてイメージ向上 ●海洋に流出しづらい漁具への切替えによるコスト増加	漁具管理ガイドラインの策定と運用率（G全体）	100%	2024	漁具管理課ガイドライン案の策定・試験運用準備	★★★☆☆
				海岸クリーンアップへの従業員参加率（国内G）	30%以上	2030	クリーンアップ活動への従業員参加率7.9%	★★★★☆
	④ 生物多様性と生態系の保全	取扱い水産資源について、資源枯渇リスクがないことを確認している	○持続可能な水産資源の提供による企業価値向上 ●認証取得・維持にかかるコストの上昇	取扱水産物の資源状態確認率（G全体）	100%	2030	取扱水産物の資源状態確認率81.8%	★★★☆☆
				生物多様性リスク評価実施（国内G）	-	2024	生物多様性リスク評価方法を検討中	☆☆☆☆☆
				養殖場の認証レベル管理の実施（国内G）	-	2024	養殖場の自主管理基準案の策定	★★★☆☆
	社会 価値の 創造	⑤ 安全・安心な食の提供	人々が安心して食を世界中の食卓に提供している	○品質事故、品質クレーム減少によるコスト削減 ●製品の品質クレーム、トラブルによるお客さまの信頼低下、収益力の低下	重大な品質事故*2（国内G）	ゼロ	2024	重大な品質事故が4件発生
⑥ 健康価値創造と持続可能性に貢献する食の提供		健康価値創造と持続可能性に貢献する食品トップ企業としてブランドを確立している	○お客さまの健康価値創造と持続可能性に配慮した食を提供する企業ブランドの向上 ●製品基準を満たす製品開発コストの増加	健康価値創造と持続可能性に貢献する製品基準確立と2030年度目標の設定（MN）	-	2024	健康価値創造と持続可能性に貢献する食の定義と基本的な考え方策定済	★★★☆☆
⑦ 多様な人材が安心して活躍できる職場環境の構築		多様性が尊重された、従業員が安心して活躍できる職場環境が構築できている	○性別・年齢・国籍等にとられない人材登用による社内モチベーションの向上 ●人材開発および職場環境改善コストの発生	採用比率女性50%維持による女性従業員比（MN）	35%以上	2030	2023年度の採用比率女性52%	★★★☆☆
				取締役会女性比率（MN）	30%以上	2030	全取締役・監査役に占める女性比率15.4%	★★★☆☆
				女性管理職比率（MN）	15%以上	2030	2023年4月の女性管理職比率5.5%から7.0%に向上	★★★☆☆
				マルハニチロ人材育成プログラム確立と2030年度目標の設定（MN）	-	2024	グローバル人材育成プログラム等各種育成プログラムを確立	★★★☆☆
				従業員エンゲージメント評価方法確立と2030年度目標の設定（MN）	-	2024	従業員エンゲージメント方法をマルハニチロ㈱で確立、グループに展開	★★★☆☆
⑧ 事業活動における人権の尊重		自社含むサプライチェーン上で強制労働等の人権侵害ゼロを実現できている	○グループ内、サプライチェーン上での人権リスク低減 ●人権問題への対応遅延による企業価値毀損	サプライチェーン上の人権侵害ゼロの確認率（G全体）	100%	2030	外国人技能実習生および特定技能外国人雇用に関するガイドライン(案)策定済	★★★☆☆
⑨ 持続可能なサプライチェーンの構築		サプライヤーとの協働により持続可能な調達網構築を実現できている	○サプライチェーン上での社会・環境問題へのリスク低減 ●サプライチェーンにおける社会・環境問題への対応遅延による原材料調達不全リスクの増大	サプライヤーガイドラインへの同意率・重要項目改善率（G全体）	100%	2030	サプライヤー調査システムの導入と運用開始	★★☆☆☆

*1：対象組織を略称で記載 MN = マルハニチロ（株）、国内G = 国内グループ連結会社、G全体 = グローバル連結会社

*2：重大な品質事故とは、GRIスタンダード416-2、および417-2にて示された関連規制および自主的規範の違反などを理由とした新聞社告または自社Webサイトにて告知した商品回収を対象とする

マテリアリティのKGI（2030年のありたい姿）と主なリスクと機会

	マテリアリティ	KGI (2030年のありたい姿)	主なリスクと機会
環境価値の創造	①気候変動問題への対応	脱炭素や気候変動に対して業界における主導的地位を確立している	<ul style="list-style-type: none"> ○天然水産物の漁獲量減少を補う養殖水産物の販売機会の拡大 ●気候変動による原材料の調達不全リスクの増大
	②循環型社会実現への貢献	効率的な資源利用によるサーキュラーエコノミー（循環型経済）がグループ内に浸透し、実践している	<ul style="list-style-type: none"> ○容器包装プラスチック使用量削減、フードロス削減によるコスト削減 ●容器包装プラスチックの環境配慮型素材切替えによるコスト増加
	③海洋プラスチック問題への対応	自社を含むサプライチェーン上で海洋へのプラスチック排出ゼロを実践している	<ul style="list-style-type: none"> ○海洋プラスチック問題へ積極的に取り組む企業としてイメージ向上 ●海洋に流出しづらい漁具への切替えによるコスト増加
	④生物多様性と生態系の保全	取扱い水産資源について、資源枯渇リスクがないことを確認している	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な水産資源の提供による企業価値向上 ●認証取得・維持にかかるコストの上昇
社会価値の創造	⑤安全・安心な食の提供	人々が安心できる食を世界中の食卓に提供している	<ul style="list-style-type: none"> ○品質事故、品質クレーム減少によるコスト削減 ●製品の品質クレーム、トラブルによるお客さまの信頼低下、収益力の低下
	⑥健康価値創造と持続可能性に貢献する食の提供	健康価値創造と持続可能性に貢献する食品トップ企業としてブランドを確立している	<ul style="list-style-type: none"> ○お客さまの健康価値創造と持続可能性に配慮した食を提供する企業ブランドの向上 ●製品基準を満たす製品開発コストの増加
	⑦多様な人財が安心して活躍できる職場環境の構築	多様性が尊重された、従業員が安心して活躍できる職場環境が構築できている	<ul style="list-style-type: none"> ○性別・年齢・国籍等にとらわれない人財登用による社内モチベーションの向上 ●人財開発および職場環境改善コストの発生
	⑧事業活動における人権の尊重	自社含むサプライチェーン上で強制労働等の人権侵害ゼロを実現できている	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ内、サプライチェーン上での人権リスク低減 ●人権問題への対応遅延による企業価値毀損
	⑨持続可能なサプライチェーンの構築	サプライヤーとの協働により持続可能な調達網構築を実現できている	<ul style="list-style-type: none"> ○サプライチェーン上での社会・環境問題へのリスク低減 ●サプライチェーンにおける社会・環境問題への対応遅延による原材料調達不全リスクの増大